



9月号

令和2年8月31日

横浜市立東中田小学校

校長 天野 直美

TEL.802-0500 FAX.801-4089

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/higashinakada/>

## 「ならぬものはならぬ」

校長 天野 直美

短い夏休みが終わり、猛暑の中、学校が始まりました。保護者・地域の皆様が力強くそして温かく見守ってくださっているおかげで、子どもたちは、暑さに負けず気持ちを奮い立たせながら登校することができております。皆様に心よりの感謝を申し上げます。

ある日東門で登校の見守りをしていると、保護者の方から「先生の実家は秋田ですよ。」と声をかけていただきました。「覚えてくださってありがとうございます。でも今年の夏は帰れなくて・・・。」と私は言葉を返しながら、淋しさを感じた次第です。皆様の夏休みはいかがだったでしょう。8月と言えば旧盆。伝統の夏祭りが日本各地で行われますが、今年はその多くが中止となってしまいました。中田・しらゆり両連合や各町内会主催の盆踊りやサマーフェスタも今年はすべて中止となり、皆様も残念と感じていらっしゃるのではないのでしょうか。私は毎年、太鼓をたたいたりお店を出したりして、地域で生き生きと活動している本校児童の姿を見るのが楽しみでした。コロナ以降のふれあいの場づくりについて、今後様々な工夫と医療の進歩により新しい様式が生み出されてくると思います。安全が確認され、安心して皆が集まって交流できる 때가待ち遠しく思います。

しかしながら、今私たちは不要不急の外出を控え、人との密な接触を避けなければなりません。保護者の皆様は子どもたちを家庭でどう過ごさせるか頭を悩ませていらっしゃるのだとお察しします。以前は「家でゲームばかりしていないで、外で遊んでいらっしゃい。」などの声掛けが常識的でしたが今はできません。その結果ゲームの時間に制限を設けることが難しいとの声が聞かれます。ゲームの中でもオンラインゲームで友達とつながりながら遊ぶことに問題を感じていらっしゃる保護者の方が多いようです。オンラインゲームは子どもにはやらせたくないと思っても、子ども同士の間関係が壊れることを恐れ、つい子どもの言いなりになり、与え、「家庭のルール」に歯止めが効かなくなったという話が聞こえてきます。私は個人的に自分が小学生の親だったらオンラインゲームはさせないと思います。本来子どもは、何も与えられなくても遊びを自分で工夫して楽しむ力があります。私が小学生だった頃を思い出してみますと、押し入れに積み重ねられた布団を壁にして倒立をしてみるとか、好きな曲をかけて適当に踊ってみるとか、取るに足らないことをいろいろやっていました。時間のつぶし方を体得したと思います。子どもの願いをすぐ受け入れたり、大人から与えすぎたりしないことが良いかもしれません。一旦与えてしまったものを取り返すのは難しいと思います。しかし保護者が問題の原因と感じているのであれば、子どもから勇気をもってそのものを取り返し、子どもが振り返る時間を与えていただきたいと思います。子どもにはまだ自分だけで決めてはならないことがたくさんあります。子どもが踏み込んでではない領域もあります。その子の成長を願っている一番の大人の言葉は必ず子どもに伝わります。「家庭のルール」がうまく守れない我が子に対して、「ならぬものはならぬ」と言える勇気を持ち、より良い方向に導くことが大切だと思います。

※写真は図工室の様子です。天井から机に飛沫拡散防止のための透明シートを教職員の手作りで設置しました。

